

伊佐はとってもいいさ ～地域に貢献する意欲の醸成を目指して～

県立伊佐農林高等学校 教諭 谷口真一朗

はじめに

伊佐農林高校は在籍生徒の8割以上を伊佐市出身者が占めています。卒業後の進路先も地元志向が高く、多くの卒業生が地域で活躍しています。

ここでは、地域に貢献する意欲の醸成をテーマにして取り組んだ内容を紹介します。

伊佐米PR活動で人材育成

伊佐市は九州山地に囲まれた内陸盆地で気温の寒暖差が大きく、市歌「伊佐はとってもいいさ」でも「きらきら光る伊佐の米」と歌われるほど水稻栽培が盛んです。しかし、2018年4月に発生した硫黄山噴火の影響により、この年は川内川水系から取水する水田での水稻栽培を断念せざるを得ませんでした。

河川堤防の「草文字」で地域を元気に！

生徒に地域の状況を伝え、本校の水田脇にある河川堤防に草文字を作ることにしました。その目的は、国道268号線からよく見える堤防に草文字を描いて、水稻栽培を断念した農家の方々を励まし、風評被害を払拭して地域を元気にすることにあります。文字を縁取り、周囲に生える雑草の刈り払いを繰り返す作業は労力を要しますが、生徒が考えたことばを共に作成して3年目を迎え、現在では地域に定着しています。描いた草文字は、1年目は「ここがいいさ とってもいいさ」、2年目は「ウマイゾ伊佐米イサライス」、3年目は「ソレイケ！イサマイマン」です。



【3年目に作成した草文字】

コンテスト出品とイベントでの伊佐米PR

伊佐米の知名度向上と実習生産物である本校産米の外部評価を得るために、各地で開催される米の食味コンテストへ出品しています。令和元年度には、「あなたが選ぶ日本一おいしい米コンテスト（山形県）」の高校生部門で優秀金賞を獲得し、伊佐米の品質の良さを示すことができました。

また、コンテストの際に開催されるイベントや県内の農産物販売イベントでは、生徒がリーフレットを配布して伊佐米のPR活動を実践しました。

地域農家の支援に学びを生かす

伊佐市は昨年引き続き豪雨災害で農業生産に大きな被害を受けました。農家を支援したいという生徒の意向から、特に著しく被災した農家へ出向き、被災農家の復旧活動を支援しました。

また、農繁期に労働力が不足する農家からの要望に応じて「援農」を実施しており、今年度は高齢農家の種もみ消毒作業を手伝いました。生徒にとっては実習で習得した技術を生かす機会でもあり、自信を持つきっかけになっているようです。



【被災農家の支援活動】

伊佐農林膳プロジェクトで地域協働

昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、恒例の学校行事である収穫祭（実習生産物を食材にしたバーベキュー）を、伊佐農林膳プロジェクトに変更して実施しました。これは、農業クラブ及び家庭クラブ役員で実行委員会を組織し、地元仕出し業者の協力を得て実習生産物を食材にした弁当を作る企画です。メニューや調理法の考案、試食と改善、パッケージデザインの図案化を経て完成した伊佐農林膳を全校生徒で頂くことができました。この企画により、様々な行事が中止となる中で生徒の活躍の場を創出するとともに、地域協働の取り組みが実現しました。

おわりに

地域連携や地域協働を円滑に進めるには、それを受け入れる地域の協力が不可欠です。本校では、かつて活躍した地域応援団が地域との繋がりを確立し、その基礎は今も受け継がれています。今後も、状況に応じて形を変えながら、地域に貢献する意欲の醸成を図りたいと思います。